

**第 150 回簿記検定試験**  
**3 級 出題の意図**

**[第 1 問]**

(出題の意図)

1. 土地の取得に関する問題です。付随費用を取得原価に含められるかを問いました。
2. 仕入勘定で計算された売上原価という費用を、損益勘定に振り替える問題です。貸借が正確に記入できるかを問いました。
3. 現金過不足の問題です。まずは現金が不足していたのか、そうでないのかを正確に把握できるかを問いました。
4. 建物の改築と修繕の問題です。資本的支出を資産に、収益的支出を費用にできるかを問いました。
5. 収入印紙の問題です。収入印紙の購入・使用は印紙税の支払いとなることを理解しているかを問いました。

**[第 2 問]**

(出題の意図)

補助簿の選択を中心とした基本的な問題です。

問 1 では、各取引の記帳の際に用いられる補助簿について理解しているかを問いました。各取引について仕訳をし、どの勘定科目が増減するかを把握すれば、解答を導くことができます。

問 2 では、純売上高の意味（総売上高との相違）を把握しているかを問いました。6 月中の取引を仕訳し、総売上高から返品高を控除すれば、解答を導くことができます。

問 3 では、商店別の売掛金の増減を正確に集計できるかを問いました。まず、総勘定元帳における売掛金の残高と、売掛金元帳における商店別の売掛金残高をすべて合計した額が一致することを用いて、月初の箱根商店に対する売掛金の残高を求めます。次に、この月初残高に 6 月中の箱根商店に対する売掛金を加減すれば、解答を導くことができます。

### **[第3問]**

#### **(出題の意図)**

1ヶ月分の取引に関する資料から残高試算表を作成する問題です。項目ごとに資料がまとめられており、重複する取引があります。問題の指示に従ってこれらの重複取引を適切に処理することが求められます。商品を購入するにあたって、手付金を支払っていますが、この処理とその後の仕入時の処理もポイントになります。

### **[第4問]**

#### **(出題の意図)**

基本的な伝票の起票を問う問題です。(1)は仕入れにあたり一部を現金、残額を掛けとする取引について2つの起票方法があることを問うものであり、「( ) 伝票」の科目欄に買掛金が入っているところから「振替伝票」の起票内容がわかります。(2)については、送料の処理に加えて「(③) 伝票」という形で伝票名も答えられるかを問う問題です。

### **[第5問]**

#### **(出題の意図)**

精算表の作成から決算整理を問う問題です。過去にあまり出題がされていない修正項目として1を踏まえた6、2および4があります。

1は返品処理となりますが、これによって期末商品棚卸高も変動するため、売上原価を算定する際の取り扱いを6で明示しました。2は小口現金について定期的な報告・補充とは別に決算目的で記録を行うことや、そもそも定額資金前渡制度を採用しないこともあるため、使用のみの記録を行う出題としました。4は保険料の中途解約のため、前払費用で未経過分を処理するのではなく解約後の期間に対応する金額を問題文の指示にしたがって処理することになります。いずれも、取引そのものは普段の学習で見慣れないものであっても、取引を理解して指示どおりに処理を行えるかを問うものです。